

令和元年度 加古川市青少年問題協議会 会議録

開催日時	令和元年7月11日(木) 午後1時30分から午後3時15分まで
開催場所	加古川市立青少年女性センター 4階大会議室
出席者	<p>&lt;委員&gt;  高木委員、鰐木委員、小南委員、後藤委員、青山委員、長瀬委員、大西委員、坂田委員、岡本委員、藤野委員、橋本委員、水田委員、船原委員、田中委員、田代委員、池田委員、木下委員、清水委員、中山委員、藤原委員、原 委員、福島委員、伊藤委員(代理)</p> <p>&lt;幹事&gt;  山本幹事、福島幹事、境 幹事、今津幹事、山野幹事、柴田幹事、藪下幹事、宮武幹事、大塚幹事、馬勝幹事、山崎幹事、真島幹事、宮北幹事</p> <p>&lt;事務局&gt;  松浦、池澤、前田</p>
会議次第	<p>&lt;協議会次第&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 委嘱状、任命通知交付、市長あいさつ</li> <li>2 開会 幹事紹介、会長・副会長選出、会長あいさつ</li> <li>3 全体会議 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 報告事項(昨年度の取組報告) 「いじめ防止対策改善基本5か年計画に基づく 命を大切にする教育の推進について」</li> <li>(2) 協議事項 <ol style="list-style-type: none"> <li>①加古川市青少年健全育成基本方針(案)について</li> <li>②青少年健全育成重点施策の概要(案)について</li> <li>③青少年健全育成に関わる組織図について</li> <li>④青少年健全育成に関する各所管担当事業について</li> </ol> </li> <li>(3) 基調提案(本年度の重点課題) 「加古川市の児童生徒のケータイ・スマホ等の 利用実態と課題について」</li> <li>(4) その他</li> </ol> </li> <li>4 講演 「県下・管内のSNSトラブルの状況等」</li> <li>5 閉会 副会長あいさつ</li> </ol>
配付資料	1 令和元年度古川市青少年問題協議会次第

	<p>2 加古川市青少年問題協議会議案</p> <p>3 報告事項補助&lt;&lt;資料&gt;&gt;</p> <p>4 基調提案資料&lt;&lt;資料&gt;&gt;</p> <p>5 座席表</p>
<p>会議要旨（発言者、発言内容、審議経過等）</p>	
<p>1 委嘱状、任命 通知書交付 正副会長選出</p> <p>2 開会</p> <p>3 全体会議 青少年育成課 教育相談センター 所長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市長より委嘱状、任命通知書交付。</li> <li>・ 市長あいさつ</li> <li>・ 会長に小南教育長、副会長に後藤社会教育委員を選出する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会長挨拶</li> <li>・ 本会成立確認（委員の過半数以上、23名の委員が出席）</li> </ul> <p>（1）報告事項（昨年度の取組報告）</p> <p>平成30年度基調提案を受けて、「いじめ防止対策改善基本5か年計画に基づく命を大切にす教育の推進について」の報告を行った。（議案1ページ）</p> <p>【要旨】</p> <p>いじめ未然防止に係る取組として、生徒会・児童会を中心とした「心の絆プロジェクト」に取り組んだ。「いじめ」を無くすためには、児童生徒自らの手で取り組む活動が重要と考えている。「いじめ防止集会」や「児童会・生徒会合同あいさつ運動」等、児童会・生徒会を中心に協力し、工夫した活動が進められた。その取組状況や成果を「第1回いじめ防止市民フォーラム」や「第11回加古川教育フォーラム」において発表した。また、「いじめ防止啓発チラシ」や「相談行動促進のためのリーフレット」等を配付し啓発にも力を入れた。</p> <p>いじめの早期発見・早期対応として、「学校環境適応感尺度（アセス）」を活用し子どもの内面理解を進めるとともに、「心の相談アンケート」を活用した「教育相談」を児童生徒全員に実施した。児童生徒の適応状況や困りごとを把握しながら、「いじめ」の早期発見・早期対応へとつなげた。</p> <p>さらに「アセスに関する基礎的な研修」「教育相談のスキルに関する研修」「学校生活適応推進研修講座」「自殺予防教育／危機管理研修」等様々な研修を実施し、教員の対応スキル向上を目指した。</p> <p>昨年度から、「いじめ防止対策評価検証委員会」を設置し、教育委員会が進めるいじめ防止対策の成果や課題について、評価検証委員の皆様から指導助言をいただき改善を図っている。</p> <p>委員からは、「取組状況は概ね良好である」との評価を得ているが、「順調な時ほど落とし穴にはまることもあるので、これからも緊張感をもって</p>

	<p>取り組んでほしい」との意見もいただいた。</p> <p>今年度の新たな取組は、自殺予防教育の推進のために作成したリーフレットを小学校4年生から中学校3年生までの児童生徒に配付し、各学校でそのリーフレットを活用した授業を実施予定である。</p> <p>いじめ問題は、「一人で誰にも打ち明けられず苦しい思いをしている子どもを救う」ことが最も大切なことであると考え。人間関係をつくる真っ最中である児童生徒が、日々直面する小さなトラブルを大人の感覚で、「些細なこと…」と捉えがちだが、些細なことか深刻なことかを決められるのは当の本人だけであるため、児童生徒の心に寄り添った対応を心掛けていきたい。</p> <p>(2) 協議事項</p> <p>①加古川市青少年健全育成基本方針(案)について</p> <p>②青少年健全育成重点施策の概要(案)について</p> <p>③青少年健全育成に関わる組織図について</p> <p>令和元年度青少年健全育成基本方針(案)、青少年健全育成重点施策の概要(案)、青少年健全育成に関わる組織図について説明し、意見を求めた。(議案2～5ページのとおり)</p> <p>&lt;質問、意見等なし&gt;</p> <p>&lt;①(案)及び②(案)について、承認された&gt;</p>
各幹事	<p>④青少年健全育成に関する各所管担当事業について</p> <p>青少年健全育成に関する各所管担当事業について各幹事より説明し、意見を求めた。(議案6～11ページのとおり)</p>
委員	<p>&lt;質疑応答&gt;</p> <p>社会教育・スポーツ振興課について、中学生・高校生対象の居場所づくりについてどのようなことをされているのか。</p>
幹事	<p>公民館で開催される活動も中高生が参加できる活動である。登録団体で行う事業の中にも中高生が参加できる活動もある。</p>
委員	<p>教育総務課について、市立幼稚園に入園する園児の数が減っていると聞いている。PTA活動等何をするにしても困っておられる状況がある。その点に関して何か対策はあるのか。</p>
幹事	<p>平成27年に新しい子ども子育て支援制度が始まって、幼稚園児数は減少傾向にあるが、幼稚園ではお弁当が必要であることから、共働き家庭に</p>

としては、利用しづらい状況のため、認定こども園などのニーズが高くなっている。対策とのことだが、すぐに給食を実施する等は無理があるため、現状では難しい状況にある。公立幼稚園として、何ができるのか考えていきたい。

委員  
幹事

家庭支援課について、子どもの貧困対策を具体的に教えて欲しい。  
庁内子どもの未来応援連絡調整会議で、子どもの貧困対策等について関係各課で何をすればよいかを考えているところである。

少年愛護センター  
所長

(3) 基調提案（本年度の重点課題）  
「加古川市の児童生徒のケータイ・スマホ等の利用実態と課題について」の提案を行った。

(議案 12 ページ及び参考資料)

【概要】

ケータイ・スマホ等の利用実態について小学5年生から中学3年生を対象に、「ケータイ・スマホ等の利用に係るアンケート調査」を実施している。

○自分専用のケータイまたは、スマホを所持しているかの質問に対し、所持している割合は以下のとおりである。

	小5	小6	中1	中2	中3
平成28年度	28.6%	33.2%	46.4%	50.9%	52.0%
平成30年度	28.0%	36.9%	52.6%	60.9%	64.4%

中学校、3年生においては所持率が60%を超え、全国並みの数値に近づきつつある。

○ケータイ・スマホ以外の、無線LAN等を使って接続できる機器を所持しているかとの質問に対し、所持している割合は以下のとおりである。

	ゲーム機	タブレット	持っていない
小学生	67.9%	23.9%	21.5%
中学生	61.4%	26.8%	20.3%

約8割近い子どもが何らかの機種で自分専用のネット接続できる機種を持っていることが把握できた。

○「学校から帰ってから、携帯電話をどれくらいの間隔で見ますか？」との問いに対し、以下の結果が得られた。

	1分以内	5分以内	10分以内
依存傾向のある生徒	19.7%	15.7%	19.2%
依存傾向のない生徒	7.9%	9.7%	17.3%

依存傾向のある生徒では、10分以内に返信する者が、約55%あり、  
依存傾向のない生徒で、10分以内に返信する生徒が約35%ある。

○「LINEなどで既読がついたら、どれぐらいで返信しようと思いますか？」との問いに対し、以下の結果が得られた。

	1分以内に返信する
依存傾向にある生徒	32.6%
依存傾向にない生徒	22.1%

このことから、携帯電話を手放せない生徒がいかに多いか読み取れる。

- ・変化の激しい情報化社会の中を、これから生き抜いていく子ども達にとって、ケータイ・スマホを含めたインターネットは、必要不可欠であるが、実体験を通して体験できるものを見つけることが大切である。
- ・生徒会・児童会を中心に使い方を考えたり、保護者向け研修会等を年間複数回、保護者の方にも実態を知っていただくという機会を持てるように取り組んでいく。
- ・子供たちも色々なことに悩んでいるが、大人がSNSのことをよく分かっていないから相談できないという実態もある。大人が、SNSについて理解することが大切であることを研修会等で啓発していきたい。

(4) その他

委員 色々な施策を実施されているが、保護者として様々な悩みをどこに相談や問い合わせたらよいのか教えて欲しい。

幹事 学校関係の事は、教育相談センター。家庭環境等の事は、家庭支援課が対応している。市役所内でも連携しているので、適切な場所を紹介できると思う。「広報かこがわ」でも相談窓口がたくさん掲載されているので、参考にしてほしい。

委員 ケータイ・スマホ関係のアンケートは、保護者にも実施しているのか。保護者もケータイ・スマホに対して意識を持っているのか知りたい。

幹事 現段階では、保護者に対してアンケート等は実施していない。次回は、32年度にアンケート調査を予定しているので、その際に保護者の考え方などを尋ねるような項目も入れていきたい。

4 講演  
東播少年サポート  
センター所長

「県下・管内のSNSトラブルの状況等」をテーマに講演。

(議案書 13 ページ)

1 活動内容

- (1) 街頭活動
- (2) 少年相談 (面接を行い、助言等を行う)

- (3) 近隣のサポートセンターと協力しボランティア活動を実施
- (4) 広報啓発活動（情報モラル教室、SNSに関する注意喚起、薬物乱用防止教室、非行防止教室等を実施）

## 2 県下の少年非行の現状

非行少年は、年々減少傾向にある。不良交友少年で補導した少年も大幅に減少している。

福祉犯・児童買春・児童ポルノ等少年愛護条例違反で検挙された人数は、微増となっている。また、そのような被害にあっている人数も微増になっている。学職別にみると県下では、被害少年の内中学生が67人、高校生が67人と小学生が40人となっている。

現状では、半分は非行、半分は支援を要する子という印象である。最近では、ケータイ・スマホの所持率は上昇傾向にあり、トラブルが増加している。

### (1) SNSについて

平成29年度警察庁の調べでは、全国でSNSを利用して犯罪被害にあった子どもは、1,842人。実際は、判明していないものも含めると、もう少し多いのではないかと考えられる。誹謗中傷、いじめ問題、SNSに悪ふざけの投稿、バイトでのいたずら。俗にいうバイトテロ、爆破予告があげられる。

ネットゲーム依存症。WHOでは、ゲーム依存はゲーム障害、疾患という病気の種類として認定されるようになっている。昼夜逆転してしまい、スマホを取り上げられると暴れることもある。

ネット上で知り合った人に出会う子どもの増加のため、サイバーパトロールを実施している。内容は、SNSで未成年と思われるものを見つけ出し、援助交際等を見つけると現場で補導するような活動を実施中。事案を保護者に連絡すると、保護者は寝耳に水で、本当にびっくりしている。子供に携帯を与えたら、フィルタリングをしたり、家庭でルールを決めたりして欲しい。

また、児童ポルノ事件や児童が自らを撮影した事件、自我撮りの被害に会った児童は、515人で年々増加している。被害に会った児童の8割は面識のない者に画像を送らされてしまったり、うまく誘導されたりと簡単に自分の裸の画像を送ってしまっている。

### (2) 大麻について

昨年、中学生が大麻の事件で逮捕された事案では、ツイッターで見ず知らずの人から大麻を譲り受けていた。その家庭に郵便物が届き、その商品名が中国茶のサンプルでした。お母さんとしては、自分が注文していないし、まさか子どもが取り寄せるのかと不思議に思ったので、それ

<p>5 閉会</p>	<p>をサポートセンターに相談した。状況からすると薬物ではないかと疑われましたので、そのものを持って警察署へ行きました。開けてみると結果は大麻でした。大麻譲り受け未遂事件となりました。この子は14歳でしたが、大麻を手に入れることができたのです。大麻を譲り渡そうとした大人も逮捕となりました。この者はネットで大麻を売りさばく人だということで、新規の客を広げたかった、ツイッターでプレゼント企画をしていたようだ。</p> <p>お金を払わずして薬物を手に入れることができる。SNSが便利な反面怖いことだと感じた。携帯を持つなということはいえない時代になってきたので、取り扱う本人のモラルの向上、保護者の管理を徹底していかなければならない。</p> <p>3 東播少年サポートセンターの取組</p> <p>派出所や加古川警察署、少年愛護センターとの連携。</p> <p>警察ができることは限られているので、今後も関係機関と連携を密に取りやっていきたい。初動は警察の命とよく言われるが、今後も少年を取り巻く事案は複雑になっているので、状況を正確に把握し迅速に的確な行動をしていく。皆様からのご協力が不可欠になりますので、協力をお願いしたい。</p> <p>副会長あいさつ</p>
-------------	---